

2016 年度年間テーマ — 「いい人生ったね」と言えるように—

5 歳の孫との対話

「六さいになったら小がつこうにいくんだって！」

それからどこへいくの？ 「中学校」

「それから？」 「働く人もいるけど勉強したい

人は高校へいくね」

「じゃあ、いく。それから？」 「大学」

「それから？」 「働いてお母さんになるかな？」

「それから？」 「ばば」（スピードがあがる）

「それから？」 「大ばば」

「それから？」 「生きものだから死ぬね」

「・・・にんげんは死ぬし、はなは、かれるし・・・」

「死んだら神さまの所に帰るんだよ

それが幸せってこと」

すると孫は歌い始めました。

「♪シアワセってどんなだろう♪

シアワセってどこにある

♪きつとみつかるシアワセは

あさがきたシアワセ

・♪・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・♪・・・

♪すてきなことばおぼえたよ

それはねシアワセ

それはねシアワセ

それはねシアワセ」♪

― 送り返された十三年前の手紙から ― 橋詰

勉強会

28 年 9 月 24 日（土）10：00～12：00 会場：愛知病院地域研修室
テーマ「橋本淳愛知病院緩和ケア部長との交流会」 参加者 22 名

〔内容〕

患者、その家族、在宅医療者、看護師、ボランティアなど参加者全員の想いを先生は最後まで優しいまなざしで聞いてくださり、率直な意見交換と会員同士の交流もできました。（橋詰）



〔感想〕

- ・愛知病院さんの緩和ケア病棟や岡崎ホスピスケアを考える会の方たちの活動をお聞きして、改めて素晴らしいなあとその一言に尽きました。現在看護師としてがん患者さんと毎日関わっている状況にあるのですが、患者さんに向き合う姿勢を考えさせられました。みなさんのお話を聞いているときになぜか自然に涙があふれてきてしまい、止めることができず、自分でも困ってしまった場面もありましたが、それ程自分にとってとても貴重な経験をさせていただきました。
- ・医療者とボランティアがそれぞれ患者さんへの想いが伝わってきました。こういった想いを伝え合うことで、信頼関係が築かれると思いました。
- ・色々な立場の皆さんの貴重なお話が聞けて良かったです。我が身を振り返り反省させられるばかりです。これからの人生は後悔しないよう精一杯過ごしていこうと思っています。
- ・今回の勉強会は、会員の方の気持ちがたくさん聞けて良かったです。
- ・字がかけません。いい会ですね。（骨折されたばかりでの参加）

- ・初めての参加です。一つ一つのお話が心に響いてがん患者になったばかりの母を持つ私にとってはとても大切な時間になりました。緩和ケアのボランティアも今回初めて知り、皆さんがいろんな想いを込めて活動されていることも分かりました。母の残された日々を私なりに一緒に大切にしていこうと改めて頑張っていこうと思いました。



- ・多職種の方々と交流ができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。「人間の器官の中で最後まで残るのは聴覚だよ」と聞いたことがあります。これからも患者さまの心に癒しの音が届くよう、心を込めて演奏したいと思っています。

- ・癌の病は、この会に入れていただき乗り越えられた想いです。ありがとうございました。
- ・日常生活当たり前のように、色々な人と会うことが多い今、本日この会に参加させていただいて、皆さまご自身の心の根を言葉としてお話され“ああ自分のことを言葉として皆の前で話をされ少し表情がスッキリされたなあ”と感じました。
- ・私は1年前突発間質性肺炎で、息苦しい状況下の中、余命1年短ければ半年と突然言われました。病院入院は初めてで今の病院での告知はこんなものかーと思いました。余命一年と言われても自分らしく日々楽しく過ごしています。がんセンターで胆石の手術をされた方のお話の中に「病室が暗かった」という事が気になりました。楽しく明るく笑いある病室にすれば良いのにと感じました。
- ・緩和ケアに関わる医師・看護師・家族・ボランティア、それぞれ役目があり小さな働きも大切だと思いました。
- ・ピアノ演奏される方がリクエストに応えられなかった想いを伺い、深い暖かい心がたくさん詰まっていることに感謝の気持ちでいっぱいになりました。
- ・皆さんのお話をもっと聞けるような集まり（場所）があるとうれしいのですが・・・（皆さんお忙しいから無理かな？）
- ・「辛い中にも光がある」その光を大切に生きていきたいと思っています。

勉強会

28年11月12日（土）13：30～15：30 福祉会館 302号室 参加者29名
テーマ「死を受け入れてどう生きるかNo.11」 早川努カトリック岡崎教会神父

〔内容〕

早川神父さまは、自分の生い立ちから神父になられた経緯を話され「生と死」へ話を続けてくださいました。

―命を尊ぶことを愛と言う― 人間は愛を紡ぐ役割を持ち、自分の意思で周りを慈しむことを期待されている。人間は全て世界観を持っていますがこの世界を客観的に見つめ直し修正する必要があります。自然科学の目から見ておかしい事はおかしい。

―考え方のヒントとして― 花が咲く事が尊いと思う、それが宗教観とか世界観とか呼ぶものです。

多くの人は何らかの世界観を持っています。何かを信じようとして生きています。信じるに値する事を提供していきたい。信じて生きて幸せであればそれは良い。

（柴田睦）



〔感想〕



・子供が「おばあちゃんはマリア様と一緒になの」と言えるなんてすばらしいなあと思いました。子供のような心になりたいと思います。この会にはキリストにならって生きておられる方が多くいらっしゃいます。いやされます。

・初めてこの会に参加させて頂き、皆様とても勉強されているのに頭の下がる思いです。今後参加させて頂くホスピスケアに生かさせて頂きます。乳がん後、洗礼を受けた姉と宗教について詳しく話す機会はありませんので一度話をしてみたいと思っています。私自身死後の世界は考えていません。

- ・「人は、神様から自由意志を与えていただき、互いに愛を学ぶために生まれてきた」というお話は感動しましたし、深く納得できました。またたくさん教えていただけるのを楽しみにしています。
- ・神様に私たちは愛されているという感覚、そして世の中の美しい物、真理、善などからことごとく神様からの愛を感じる。人間は愛の中でしか生きられない。神の国を人間関係の中で感じられるということ。今日は素晴らしいお話をありがとうございました。



- ・「死を受け入れてどう生きるか」の死を自分の死か、家族の死か考えながら、神父さまのお話を楽しみに、またどう話されるか考え、参加されたみなさまのお話は様々で感心して聴いていました。自分の考えは何か、先日観た映画（永い言い訳）の中で「愛すべき時に愛されなかった代償は小さくない」という主人公のセリフが一つ自分の考えかなと思いました。

・私は宗教は人間がこの世を平和で美しく生きるために創りだしたものと思っていますが、それで人が救われるのも事実、それに惑わされるのも人間の姿。時の権力とむすびついた宗教の歴史も知ると、人間の弱さをかみしめながら「愛」という言葉で神父さまが申されたことは胸に深く響きます。

- ・無宗教の私には一つの宗教を信じて活動していらっしゃる人は眩しい存在です。愛によって人は生きる希望や力が湧いてくるのでしょうか。神父さまのお話を伺いまた関連して皆さまのお考えを聞き、今後の参考にしたいと思います。
- ・今日は早川先生からわかりやすく「死を受け入れて生きる」についてお話を聞かせてくださってありがとうございました。家内もいま召天をひかえておりますが主を信じて安らかに待っています。
- ・今日も身近に愛を感じられるお話をありがとうございました。神様から自由意志を与えられて・・・戸惑いながら 95 歳の介護と孫の子守の幸せと今を生きています。愛の実践・・・目指して成長していきたいです。
- ・人間は愛がなければ生きられない。いっぱい皆に愛を届けて愛がつながるといいなあと思いました。なかなか死者を見ることが少ないので死に対して考えることが幸せにつながる。少し考えようと思います。
- ・今日はありがとうございました。死を受け入れて生きる。今を大切に生きる。もっといっぱいお話を聞きたいです
- ・いろんな人生のまた死のとらえ方があり安心しました。皆さん一生懸命に生きておられる事に改めて感じました。今を一生懸命に生きれば・・・死後の世界はあまり深く考えていません。
- ・過日被害地支援（福島からの子どもたち）で早川神父さまにお会いしました。人が生きて行くのに欠かせないこと→愛される・愛する。宗教心を持つこと→神と共に在る。愛する対象は人間だけでなく生き物すべて。「愛は全宇宙を制す」宗教観・世界観を持つ。
- ・今も神と共にいて生と死は離れた場所にあるわけではない・宗教（愛）は人間が人として生きていく中で必要なもの。そのとおりだと思います。



・神父さんとの話をすることは久しぶりで自分は仏教なので他の話を聞けてありがたいです。

・「自分の考えを客観的に見て考えを修正していくことが大切」というお話が心に残りました。

・周りの知人肉親が殆ど他界され、一番早く失礼するはずの廃人の自分が残って本当にいいのかと思いつけてこ



れ程の生命を感じた事はございません。ここまでこんなことはなかったのですが本当に真実が迫っていることを感じているのです。この肉体の続く限り働きたく存じます。

・みなさんいろんなことを考えて毎日を過ごしてみえるんだなあーと感心するやら、勉強してみえることに考えさせられました。

・神父さんというのは宗教に夢中になっているのかなあと思っていたのですが、お話を聞いて普通に今の世を現実にとらえて生きていることを知り少し安心しました。

・「死を受け入れてどう生きるか」が10年ぶりと言われて10年どう生きてきたのかなって考えさせられています。最近いろいろやって来たことの一つ一が点だとするとそれが線になってきているように思います。全て点になったものが線になった時死を迎えられたらと思っています。

緩和ケア病棟ボランティアの報告

ティーサービス・アロママッサージ・季節の模様替え・楽器演奏

毎週金曜日1:30~4:30 愛知病院緩和ケア病棟

アロママッサージ 毎週火曜日1:00~3:00 練習第4金曜日11:00



〈家族会〉

10月22日 地域緩和ケアセンターにて、家族会が行われました。緩和ケア病棟で亡くなられたご家族と病棟スタッフとの分かち合いの時間。私たちはお茶をご用意するお手伝いしました。

今回は11組(18人)とのことでしたが、当日の欠席もあり、少ない人数となりました。以前と違い退院され在宅で過ごされる方も多く、緩和ケア病棟での関わりが短くなったからかもしれません。

家族会に参加するのにも勇気がいりましたとのこと。来てみれば、同じ悲しみを持っておられる人がいることも知り参加出来て良かったと感じた。でも、亡くなった後一度だけの分かち合いの場だと知り残念です！と、おしゃっていました。ご家族からお話を伺って、この緩和ケアセンターで、何度となく悲しみの声を聞いて頂くことが出来たなら、一瞬でも心が緩和されるのではないのでしょうか。

ご病気の人にも大切な人を亡くした人にも、体だけではなく心の緩和ケアが必要だと思います。

これからもそんな心に寄り添いながら歩んでいけたらと感じる一日になりました。(柴田由紀子)

〈アロママッサージ〉

アロママッサージをさせて頂いた後の手はとても温かくなっています。部屋を後にする時、その手で患者さんの手を“そっと”握らせて頂くことがあります。「温かいね」と言われる患者さんとは、次の約束はできませんが、この手に頂いたぬくもりと、共有させて頂いた時間に感謝して「ありがとうございました」とお伝えします。足先がとても冷たい患者さんには、温まった手で、その足先を包み込むと「ホットタオルより温かいね」と言われたことがあります。人の手のぬくもりは、何よりも温かく、タオルのように直ぐに冷めないと教えて頂きました。これからも、この手のぬくもりを大切に、その温かさで癒しと、心を伝えていくことができるようにと思っています。(神尾弘美)